

特集



右が橘さん、左が木村さん

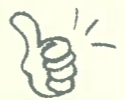
## フォローし合いながら 互いの夢に向けて

★ 移動販売専門店「WA」代表  
橘 朋弥さん 木村恭瓶さん

CHECK  
一番人気の  
自家製レモネード



COOL



橘 朋弥氏(写真右)山梨県出身。24歳。  
木村恭瓶氏(写真左)下田市出身。23歳。  
橘氏は高校卒業後、山梨県から上京。会社勤めをしているところを共同経営の話を持ち掛けられ、化粧品や健康サプリを扱う会社の経営に携わる。しかし、お客様本位ではない経営方針に嫌気がさし退職。縁もあり、下田のホテルにおいてサービス係として勤務することに。木村氏は地元の出身。サーフィンが大好きで、自己流だが、子供の頃から、料理する事も大好きであった事から、居酒屋のようなジャンルで自分の店を持つ夢を持っていたという。そんな2人は同じホテルのサービス係として同僚となり、意気投合する。  
最初は、「かき氷でも売らしましょうよ」そんな

な木村氏の何気ない乗りから始まった話が、本格的な商売の話に…。最初から店を持つより、移動販売ならリスクも最小限に抑えられる。イベントの多い観光地ならではの発想だった。ホテルも退職した。  
料理が得意分野の木村氏は、もつ煮、タコライス、カレーとナンセットなど提供できる食のバリエーションも豊富。橘氏はバーテンダーの学校に通っているだけに飲み物のアレンジが得意。地元高橋養蜂の蜂蜜を使った自家製レモネードは、多い時で1日200杯も売れる人気商品になった。  
地元木村氏の人脈もあり、今年2月に開業してから5ヶ月で実に13ヶ所のイベントを回り、高校生カフェとのコラボも行った。橘氏は経営経験もあったので、経理全般などはお手の物、デザインも手掛ける。互

いの得意分野を活かし、フォローし合う。  
今のところ1度もケンカをした事がないと話す。商売に対し、橘氏は「商売としてはスムーズに運んでいます。ただ、今のところ、若者向けのメニューだけです。年配者の方向けのメニューも出していきたいです」木村氏は「サーフィンで海外に行く事があるのですが、改めて、伊豆の海の素晴らしさを実感します。SNSなどを通じて、伊豆の魅力伝えていきたいです」と、一見、違う方向を見ているような印象を受けるが、両者とも「好きな仕事を楽しんでやっていきたい」という若者の感覚が垣間見える。夢もそれぞれ、しかし、今はその土台作りを一緒に作り上げていきたいようである。



・ 問い合わせ：橘 朋弥  
・ ☎ 080-6678-6260  
・ wa.dangomushi@gmail.com

特集

## ヘアメイクスタジオに ベーカリー?

✂️ ヘアメイクスタジオキッズ&ベーカリーキッズ  
齋藤辰治さん 齋藤未恵子さん



辰治さんが営む  
ヘアースタジオ

ご主人の辰治さんは河津町のご出身。熱川で13年、現在の場所まで17年、美容師として30年以上お店を経営されてきた。妻の未恵子さんは、富士蒲原町のご出身。美容学校時代、共通の友達を通じて結婚。お店の手伝いもしながら3人の子育てをしてきた。そんな未恵子さんは4年前、「パンを焼こう!」と思い立つ。子供の頃、友達のお母さんが自家製のパンを出してくれた。「パンを焼けるお母さんって凄い!」そんな子供の頃の記憶がずっとあった。思い

ついたら一直線、猪突猛進型のご主人の辰治さんは、1年間、熱海にある学校に毎週1回通い、365日パンを焼き続けた。それまでは、パンどころか焼き菓子も作った事がなかったが、とにかく夢中になった。  
そしてその頃、3番目のお子さんが独立。夫婦2人に。同じ場所でも同じ美容業に携わっていたらケンカになる。私の作ったパンを食べてもらいたい、私は私の居場所を作りたい。そんな妻の提案を夫の辰治さんは快く受け止め、入り口正面にパンの販売スペースを設けた。今では、パンの食感が評判となり、フ

ンの方もついた。「都会でも通用するよ」と言ってくれるお客さんもいる。ヘアメイクが済んだお客さんも帰りがけに笑顔で買ってもらえる。  
パンのお店を開いて、一番良かった事は?の問いに「私は元々地元の人間ではありませんが、このパンのお陰で友達がたくさんできました。自分で出来るペースで作っていますので、儲けは余りありませんが、そんな繋がりが出来た事が一番の宝かな」と屈託のない笑顔で答える。  
将来の夢は、パンの販売ス



パンの販売  
スペースには  
未恵子さん自慢の  
パンが並ぶ

## ヘアメイクスタジオキッズ& ベーカリーキッズ

・ ☎ 413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本249-1  
・ ☎ 0557-23-4114  
・ 定休日:日曜、月曜 営業時間 9:00~売り切れ次第  
※ヘアースタジオ及びパンに関して予約受付ます。

ースの他に、イートインスペースを作ることもか。パン繋がりで作った友達が美味しそうにパンを食べるところを眺めながら、時には自分もその輪の中に…。  
「美味しいパンを毎日食べられていいですね」と辰治さんに聞いたところ、「私のために作ってはくれませんよ。余った時ぐらいです」と、すかさず未恵子さんが「仮面夫婦だもんね」と笑う。30年連れ添った夫婦の独特の間合いが微笑ましく感じ